

今回のシジュウカラの雛は、予想よりも5日も早く巣立ちをしました。巣立ちの日は、終卵産卵直後の抱卵開始から予想するのですが、通常は±2日以内での中します。予想よりも5日も早まるのは大変珍しい現象です。営巣時期が遅く餌の幼虫やバッタ類が豊富だったこと、父親鳥が子育てに非常に積極的で、運ばれた餌の量（運び込まれるペース）が通常よりも多かったことが、主な要因と考えられます。

ちょうど連休中で私は山荘に滞在中で、台所の窓にビデオカメラを設置し、巣箱口を高精細映像で記録し続けていました。「ピピ、ジジジジ」というのは親鳥が巣立ちを促す声です。「チチチチ」という小さな声は、巣箱の中で餌をねだる雛の声です。親鳥は雛の声を打ち消すように何度も巣立ちを促しています。

最初の1羽目が巣立つと、先を争うようにどんどん飛び出していきます。最後の5羽目はちょっとためらいますが、それでも思い切って飛んでいきます。雛たちはモミ、カラマツ、クリなど、周囲の樹木の枝にバラバラに飛び立っていき、その後それぞれが親鳥の世話を受けていました。 (2023年7月中旬／北軽井沢)



1羽目



2羽目



4羽目



5羽目

※3羽目の雛は、あまりにも速くて静止画可不可能でした。